

平成31年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

平成31年 2月25日

法人年度目標		理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
① 新たな加算取得(サービスの拡大) ② 組織力の強化(チームワークを高める)		三澤京子	三澤京子	今村 真	今村 真	佐久間真理
医療 事業所	年度目標 ① 関係各位と共に協力、連携し取得を目指す。 ② それぞれの技量(知識・技術)が十分に発揮され、根拠に基づいた看護の提供を行う。また、情報の共有・意見交換を活性化して組織力を高める。					
前年度の振り返り(反省・改善策) ・他職種との情報共有・意見交換を密に行うよう努め、容態変化時対応について(受診適応の見極め)過度な医療の提供にならないよう努めました。 ・他職種との協働・連携をいっそう強化します。						
年間計画	具体的な取り組み計画			評価(達成度)		
① 日々施行の処置整合性についての見直しと評価を行う。	① 処置の有効性についての定期的な評価(1回/月) その結果、継続が必要か否かの判断・新たなプランの立案。			① 日々の処置から有効性を都度判断できた。② 書面にて常時意見交換できる場を設けてきた。また、介護会議へも積極的に出席した。③ 時間調整できず研修会等には不参加。 2020.5.1 作成		
② 各事業所管理者(責任者)との情報共有・意見交換の場面を定期的に設ける。 また、各事業所会議内容の共有。	② 月1回以上の情報共有と意見交換の場面を設ける。 各事業所会議への出席、もしくは情報の共有。					
③ 研修会・勉強会の参加と内容の共有。 学びで得た看護技術の実践。	③ 研修・学会へ参加し、得た知識・技術を全看護師と共有し実践へと繋げる。			品質管理責任者	管理者	作成者
				今村 真	今村 真	佐久間 真理
理事長評価 介護老人福祉施設の稼働率の低迷が続いている。『入院による空床』も大きな原因のひとつのようである。通院への判断について、全看護師の判断が一律であるかどうかを確認してほしい。看護師が確保できている今、看護体制加算Ⅱが取得続けられるよう勤務調整には気を付けること。						
2020年 5月16日 三澤 京子 印						

平成31年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

平成31年 2月25日

法人年度目標 ①新たな加算取得(サービスの拡大) ②組織力の強化(チームワークを高める)	理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
	三澤京子	三澤京子	今村 真	今村 真	金澤利美

介護老人福祉施設 事業所	年度目標 ①排泄支援加算・褥瘡マネジメント加算の取得 ②コミュニケーションの活性化
--------------	---

前年度の振り返り(反省・改善策)
 数名の離職もあり、勉強会の計画を立てたが実施できなかった。
 管理者・責任者・主任での意見交換場面を設け、課題や取り組み状況等の確認を実施したい。(1回以上/月)

年間計画	具体的な取り組み計画	評価(達成度)
①排泄支援加算・褥瘡マネジメント加算の取得 ②コミュニケーションの活性化	①加算取得と多職種との連携強化 1)加算取得に向けた勉強会 2)他職種とのケアカンファレンス・情報交換の実施(1回/月) ②定期的な会議・面談の実施 1)事業所・グループ会議の開催(4回以上/年) 2)個別面談の実施(2回以上/年) 3)管理者・責任者・主任での会議を実施(1回以上/月)	①の加算取得において、すべて中途半端となり取得できなかった。しっかりとした計画立案と進捗確認を今後は行っていく。 ②の『業務都合』を理由に実施することができず、チーム力強化へ繋がらなかった。 2020.5.7 作成
		品質管理責任者 今村 真
		管理者 今村 真
		作成者 鈴木 健吾

理事長評価
 介護人材確保・定着に対しては評価できるが、稼働率が低迷しており新たな加算も取得できていない。稼働率低下が続いている理由をまずは明確にしてほしい。
 ①②ともにすべての計画が大まかすぎであり、具体的な実施計画の作成と進捗状況の確認方法についても検討をお願いしたい。
 また、会議や面談等は『何のために行っているのか』を全スタッフが一律に理解できるよう、多様性と工夫のある指導を実施すること。
 2020年 5月16日 三澤 京子 印

平成31年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

平成31年 2月25日

法人年度目標		理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
① 新たな加算取得(サービスの拡大) ② 組織力の強化(チームワークを高める)		三澤京子	三澤京子	今村 真	船山純子	船山純子
居宅介護支援 事業所	年度目標 特定事業所加算を取得し、地域全体のケアマネジメントの質を向上させる。					
前年度の振り返り(反省・改善策) ・医療機関との連携を目指し研修会や意見交換会に出席はしたが、「強化」という視点では目に見える成果・結果には繋がらなかった。 ・算定可能加算である「入院時情報連携加算」や「退院・退所加算」は該当事案発生時に概ね算定・取得できた。						
年間計画	具体的な取り組み計画			評価(達成度)		
① 行政・地域包括支援センター・地域事業所との密な連携 ② 地域・近隣市町村が行う研修や集まりに積極的に参加する ③ 事業所内でよく話し・よく学べる機会を設ける ④ 地域ケア会議への参加 ⑤ 特定事業所加算の取得	① 地域ケアマネージャーとの集まりや研修会の参加 1) 寒川町内: オアシスの会 2) 茅ヶ崎・寒川地区: 茅ヶ崎介護サービス連絡協議会 3) 神奈川県内: 神奈川県介護支援専門員協会 ② 事例検討会・研修会・勉強会の実施 ③ 定期的な事業所会議 ④ 地域ケア会議への提案・参加 ⑤ 特定事業所加算取得に伴う必要要件の実施			①1)2)・②～⑤ - 達成 ①3) - 未達成 特定事業所加算へ毎月取り組んだ。外部居宅介護支援事業者と事例検討や研修等を実施したが、地域におけるケアマネジメントの質向上とはいえない。 <div style="text-align: right;">2020.4.26 作成</div>		
				品質管理責任者	管理者	作成者
				今村 真	石黒 亮	石黒 亮
理事長評価 行政・地域との連携協働や良好な関係性の構築は重要であるが、それが当法人へどのような影響があるのか問いたい。影響のひとつに、新規依頼ケースがあると思うが、今後も信頼され続けるよう取り組んでほしい。 次年度は『地域全体のケアマネジメントの質を向上させる』ために、「さまざまな会議等に参加してどのように向上させるのか？」を具体的に示してほしい。						
2020年 5月16日 三澤 京子 印						

平成31年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

平成31年 2月25日

法人年度目標 ① 新たな加算取得(サービスの拡大) ② 組織力の強化(チームワークを高める)	理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
	三澤京子	三澤京子	今村真	今村真	吉田由紀

事務 事業所	年度目標 ① 加算取得のサポート ② 助成金取得3件 ③ 事業所内の業務連携強化
--------	---

前年度の振り返り(反省・改善策)
 リスク回避のため、請求・給与業務のサブ担当制を完結予定であったが、事務員入れ替わりにより未達成。次年度は人員定着とサブ担当制を進めていく。
 前年と比べ人員減の中、助成金取得・経費削減は実施済みで今後も継続していく。また、その他職種についてもフォローし合って業務を行うことができた。

年間計画	具体的な取り組み計画	評価(達成度)
① 請求・給与の業務分担を進める ② 事務として加算取得要件・状況確認を行う ③ 助成金・補助金の取得 ④ 単独で仕事を抱え込まない体制作り	① 国保連請求 ⇒ 8～10月にかけて実施 給与 ⇒ 7～9月にかけて実施 ② 取得中の加算について、要件を満たしているかを随時確認できる仕組みをつくる。 ③ 助成金の対象となりうる事象はないかアンテナをはり、助成金取得に繋げる。 ④ 単独での業務を再度洗い出し、緊急時等の対応方法を明確にしておく。	①③④のサブ担当制について、職員離職により達成できなかったが、補助金・助成金については、4件取得(855,000円)できた。今後は離職も想定し、動画マニュアル等を整備・試行し対応できるよう努める。 ② 随時、加算要件確認を行い取得・取り下げすることができた。引き続き、加算知識の共有を行う。 2020.5.1作成
		品質管理責任者 今村 真
		管理者 吉田 由紀
		作成者 吉田 由紀

理事長評価
 さまざまな加算や補助金の継続・取得に対して評価できるが、それが故に『加算・補助金・請求関連は事務(員)業務』との考えが管理者クラスにも根付いている。今後は事業所毎で加算や補助金関連について調査・判断できる体制作り協力してほしい。
 特定事務員でしかできない業務があり、緊急時に対処できないことがあった。目標・計画でもあったように、バックアップ体制を整えることは今後必要。

2020年 5月16日 三澤 京子 印

平成31年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

平成31年

法人年度目標 ①新たな加算取得(サービスの拡大) ②組織力の強化(チームワークを高める)	理事長	施設長	品質管理責任者	管理者
	三澤京子	三澤京子	今村 真	高野将樹

短期入所生活介護 事業所	年度目標 密な連携と個々の持ち味を生かし質の高いサービスを提供する
--------------	--------------------------------------

前年度の振り返り(反省・改善策)

- ・他事業所との連携・情報交換が密にできなかった。
- ・細かな情報共有が事業所内でできていなかった。

年間計画	具体的な取り組み計画	評価(達成度)
①事業所会議・勉強会等の開催	①定期的な会議・勉強会等の開催(4回/年・必要時)	密な連携で空床利用を 所へ繋げるのパイプ役に しかし、転倒アクシデントが 発生し、危機管理力にお 課題がある。 2020
②介護老人福祉施設と連携した行事の実施	②介護老人との連携した行事の実施 誕生日会やレクリエーションの実施(1回以上/月)	
③IT・広報誌等を活用した情報発信	③IT(ホームページ等)・広報誌等を活用し、空き情報や魅力 を発信していく。(1回以上/月)	
④長期利用希望者の受入れ(施設入所へ繋げる)	④施設入所へ繋がる長期利用者の受入れ	
		品質管理責任者 今村 真
		管理者 高野 将樹

理事長評価

退職によりほぼ全スタッフが入れ替わったが、定着へと取り組んでいた。介護現場において『ある程度のアクシデント』は生命に関わることも十分に考えられる。

新スタッフは未経験も多く短期入所ならではのスキルも必要であるため、来年度は『育成・教育』に注力してほしい。

また、介護老人福祉施設の稼働率低迷が続いている。相談員同士の連携だけでなく、空床の活用(埋め合わせ)についても取り組むこと。

2020年 5月16日 三澤 京子

2月25日

作成者

高野将樹

)

を設入

なれた。

多く

いて

2.5.10 作成

作成者

高野 将樹

印

平成31年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

平成31年 2月23日

法人年度目標		理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
① 新たな加算取得(サービスの拡大) ② 組織力の強化(チームワークを高める)		三澤京子	三澤京子	今村 真	植田洋平	植田洋平
通所介護 事業所	年度目標 ADL向上(維持)に繋がるサービスを提供・評価することで在宅生活を支える					
前年度の振り返り(反省・改善策) ・バーサルインデックスを利用したADL評価において、維持・向上が多数を占めたことが目標達成できたと評価できます。 ・デイサービスの魅力を地域に発信する機会が少なく、集客率UPに繋げることができませんでした。						
年間計画	具体的な取り組み計画			評価(達成度)		
① ADL向上(維持)に繋がるプログラムの提供 ② 地域へ向けた情報発信活動 ③ 地域の力を積極的に活用する ④ 健康促進(感染予防)に向けた情報提供 ⑤ 定期的な勉強会・会議の実施	① 在宅生活継続に結びつくプログラムを計画的に実施する。 また、ADL維持等加算の定期的な評価。 ② ICTや広報誌等を活用して魅力を発信する。 ③ ボランティアセンターとの積極的に交わり、インフォーマルサービスを活用する。 ④ ご利用者へ健康促進・病気の予防に関する情報を発信し、体調不良によるキャンセルを減少させる。 ⑤ 事業所会議・勉強会(1回/3ヶ月)を実施する。			ADL低下からサービスが終了の利用者が2名(病気は除く)。要支援から要介護になった方が3名であった事から、ご利用者のADL維持に取り組めたと考える。そのため年度目標は達成。 2020.5.15 作成		
			品質管理責任者	管理者	作成者	
			今村 真	植田 洋平	植田 洋平	
理事長評価 前年度の振り返りとして『集客率アップに繋がらなかった』とあるが、ADL向上(維持)において取り組めたことによって集客率にどのような変化があったのか。 通所介護の役割は在宅生活を支えることでもあるが、顧客毎のニーズ・目的・レクリエーション等を大切に考え多様性のあるサービス提供へと取り組んでほしい。 また、ADL(身体状況等)だけでなく情報も、全スタッフが理解して介護できる体制を整えてほしい。						
2020年 5月16日 三澤 京子 印						

平成31年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

平成31年 2月25日

法人年度目標		理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
①新たな加算取得(サービスの拡大) ②組織力の強化(チームワークを高める)		三澤京子	三澤京子	今村 真	木藤 剛	船山純子
訪問介護 事業所	年度目標					
	「できること」に視点を向けてプラス支援を実践する					
前年度の振り返り(反省・改善策)						
<ul style="list-style-type: none"> ・自立生活支援のための見守りの援助について、ケアマネージャーへ発信・提案することにより獲得に繋がったケースが想定以上にあった。 ・年度後半より人員を確保でき、定着に繋がっている。 						
年間計画	具体的な取り組み計画			評価(達成度)		
①介護技術・介護知識の向上 ②自立支援(継続)へと繋がるケアの実施 ③地域での研修・勉強会等へ積極的に参加する	①認知症の理解・統一ケアの実践・専門的知識の向上 ②自立生活が継続できるための援助(発信・提案) ③地域の事業所との情報交換・研修会 1)寒川町:訪問部会(予定) 2)寒川・茅ヶ崎地区:茅ヶ崎介護サービス連絡協議会			事業所内で「利用者のできる事」に対し、共通目標を持つことができた。そのため、認知症(見守りの援助)等への理解のもと、安定した売り上げを継続できた。 2020.5.9 作成		
				品質管理責任者	管理者	作成者
				今村 真	大谷 みよ子	大谷 みよ子
理事長評価						
人材定着から育成へ取り組み、その結果稼働率アップへと順調に繋がっているようである。 当法人の強みとして、あらゆる介護サービス(施設サービス・短期入所・通所介護・居宅介護支援)を運営している。地域への研修・勉強会等へ参加することは継続するとして、施設サービスと連携して介護技術向上の機会としてはどうか。						
2020年 5月16日 三澤 京子 印						